

SPring-8ワークショップ 2009年03月17日@アジュール竹芝



SPring-8における磁性材料研究

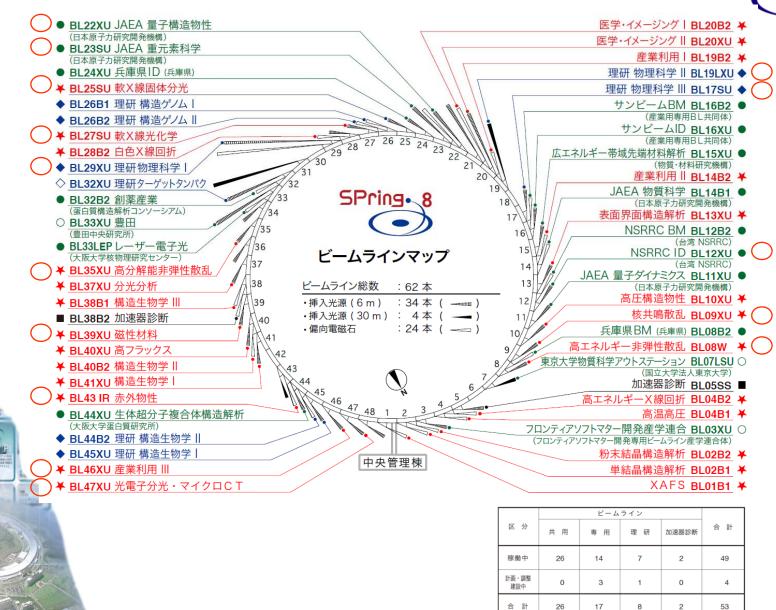
JASRI/SPring-8 利用研究促進部門 中村 哲也

- 1) SPring-8における磁性研究手法
- 2) X線磁気円二色性(XMCD)

(原理,特徵,取得情報,研究例)

ビームラインマップ





放射光、SPring-8の特徴



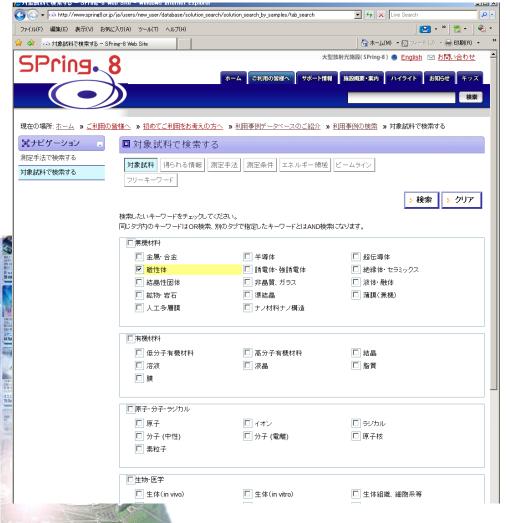
- ●極めて明るい ●細く絞られ、拡がりにくい ●赤外線からX線までの広い波長範囲
- 自然に偏光している 短いパルス光の繰り返しである

- ●放射光施設のなかで最も広いエネルギー(波長)範囲(0.01eV~300keV)
- ●真空紫外線からX線までの広い波長範囲(200~0.01nm)
- ●高いエネルギー(波長)分解能(10⁻⁴~10⁻⁹)
- ●世界最高輝度(10²¹(光子/秒·mm²·mrad²·0.1%b.w.)
- ●偏光特性(直線偏光、円偏光、高速切り替え)
- ●パルス特性(パルス幅40ピコ秒、可変繰り返し)
- ●空間的可干渉性(コヒーレンス)
- 高い電子ビーム安定性(水平面内±4μm、垂直面内± 3μm)

SPring-8 WEB事例集



対象試料で検索する磁性材料研究例



□検索結果

- 51個のアイテムが検索条件に該当しました
- 単結晶薄膜の基板結晶とのエピタキシー性の評価ピームライン BL13XU(表面界面構造解析) 最終変更日 2006-03-30 11:39
- Ba8Mn2Ge44中のMnの価数 ビームライン BL19B2(産業利用) 最終変更日 2006-03-30 13:34 🔰
- 非共鳴磁気散乱 ビームライン BL46XU(R&D) 最終変更日 2006-03-30 18:05 🕏
- 電子軌道の強的秩序状態の観測 ビームライン BL46XU(R&D) 最終変更日 2006-03-30 18:07 🐟
- 状態選別XAFS分光 ビームライン BL39XU(磁性材料) 最終変更日 2006-03-30 20:32 ③
- 共鳴非弾性×線散乱による電子励起の観測 ビームライン BL11XU(JAEA 量子ダイナミクス) 最終変更日 2006-03-30 11:26
- PFY-XAFS(Partial Fluorescence Yield XAFS: 部分蛍光収量法によるXAFS)の多様な測定手法 ビームライン BL15XU(WEBRAM) 最終変更日 2006-03-30 13:09 🔰
- バルス磁場を用いた強磁場下X線回折
 ビームライン BL22XU(JAEA 量子構造物性) 最終変更日 2006-03-31
 15:34 ♥
- <u>Mn3ZCの磁気相転移に伴うMn 4p電子状態の変化の観測</u> ビームライン BL39XU(磁性材料) 最終変更日 2006-03-30 20:21 🌣 🔰
- Ce化合物の磁気円二色性ビームライン BL25SU(軟×線固体分光) 最終変更日 2006-03-31 14:12 🔰

1 2	2 3 4 6	次の	10 アイテ	L _i »	
Chrise Oto 71+	> 初心者向け	♦ New	€ Hot	☆ オススメ	7

「測定準備に必要なおおよその時間」 「研究例のデータを取るのにかかったシフト数」 「測定の難易度」 「データ解析の難易度」

SPring-8における磁性材料研究



X線~磁性電子間の直接的相互作用を利用(偏光を利用)

X線磁気円二色性実験

4

磁気分極

X線磁気回折実験

磁気構造

X線磁気コンプトン散乱実験



磁気分極(運動量空間)

核磁気共鳴実験



核スピン

構造・電子状態からの磁性へのアプローチ

X線回折実験



結晶構造

EXAFS実験



原子配列

(角度分解)光電子分光実験



バンド構造

非弾性散乱実験

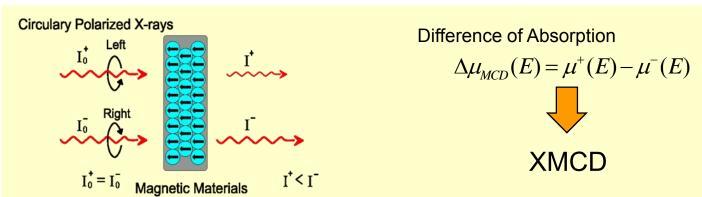


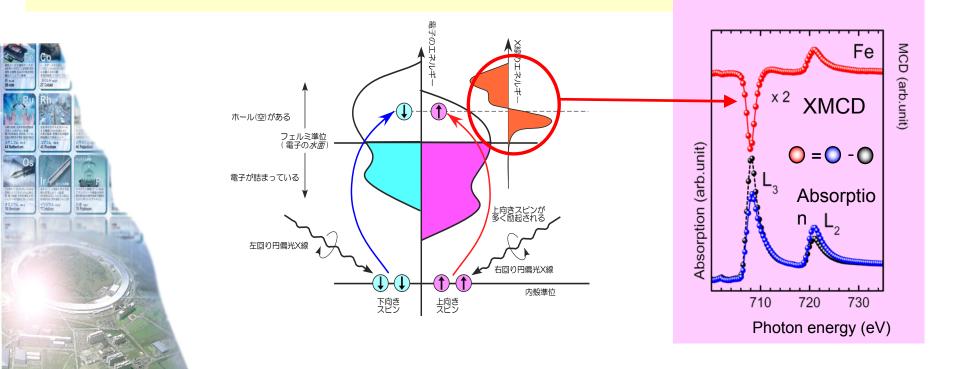
フォノン分散

X線磁気円二色性(XMCD)



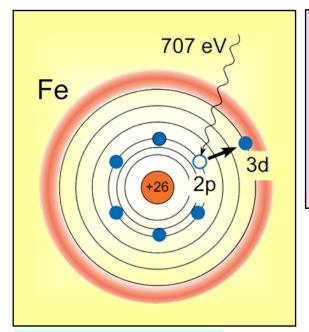
X-ray Magnetic Circular Dichroism





X線による共鳴内殻励起 (例:Fe L吸収端)

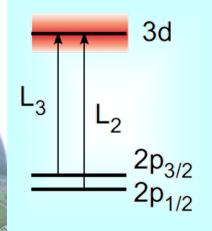




	L ₃ -edge	L ₂ -edge
Fe	707 eV	720 eV
Co	778 eV	793 eV
Ni	853 eV	870 eV



励起に必要なエネルギーは元 素によって異なる。





遷移の終状態電子殻の情報を与える

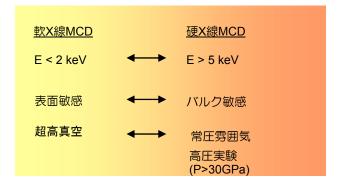
元素選択性

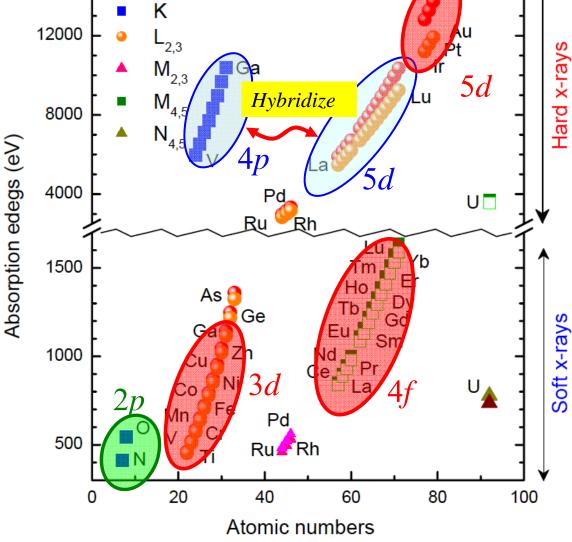
電子殼選択性

※ 3d電子は遷移金属の磁性の担い手

軟X線MCDと硬X線MCD (特徴が異なる)



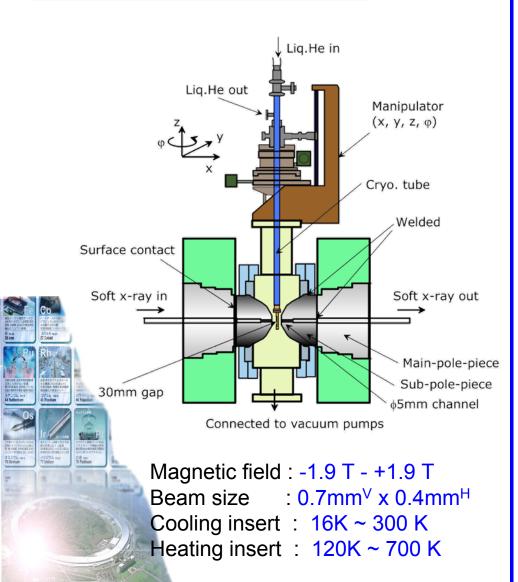


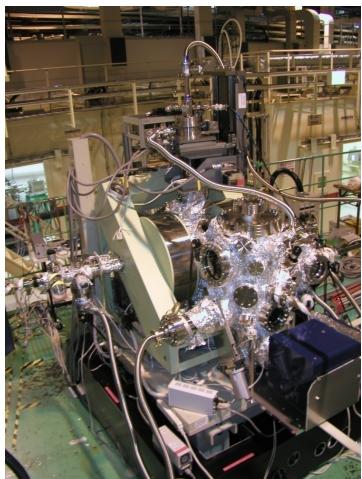




軟X線MCD測定装置



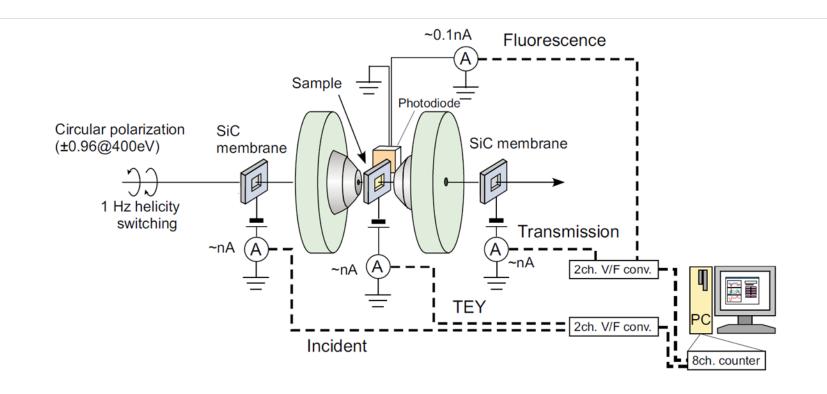




Measurement chamber (5 ~ 20 x 10^{-8} Pa) Preparation chamber (3 ~ 10 x 10^{-8} Pa) Ion sputter gun, LEED, Electron bombard, Q-mass Load lock chamber (3 ~ 20 x 10^{-6} Pa)

実験レイアウト





3ch.MCD同時計測システム。軟X線が透過可能な厚さ(t<~100nm)の導電性試料であれば全電子収量法(TEY)と透過法によって、それぞれ、薄膜表面(界面)の磁気情報と膜厚方向を平均化したバルク的な磁気情報が同時に得られる。この方法は、磁気ヘッド素子用の磁気多層膜のXMCD研究に活かされている。さらに、フォトダイオードによる全蛍光収量や正バイアス印加によって光電子引き込むタイプのTEYも選択的に組み合わせて利用している。

XMCDから得る情報(磁気モーメント)





Ta 1 nm
Ru 1 nm
Co Fe 3 nm

Mn₇₅lr₂₅ 7.5 nm

Ru 4 nm

Ta 2 nm

SiN membrane 150 nm

交換結合磁気多層膜 ※(東北大学 角田准教授提供)

強磁性層

反強磁性層

- 3d 軌道のホール数
- ・磁気双極子遷移行列要素の期待値:<Tz>

XMCD実験以外の情報



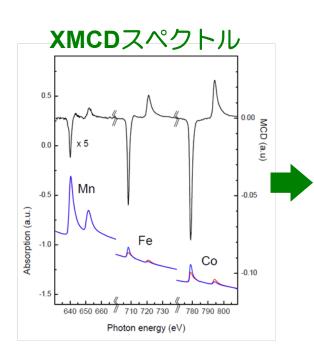
磁気光学総和則による 磁気モーメントの導出

$$\mu_{orb} = -\frac{2}{3} n_h \left(\frac{I_{L3} + I_{L2}}{W_{L3} + W_{L2}} \right)$$

$$\mu_{spin} = -n_h \left(\frac{I_{L3} - 2I_{L2}}{W_{L3} + W_{L2}} \right) \times \left(1 + \frac{7\langle T_z \rangle}{2\langle S_z \rangle} \right)^{-1}$$

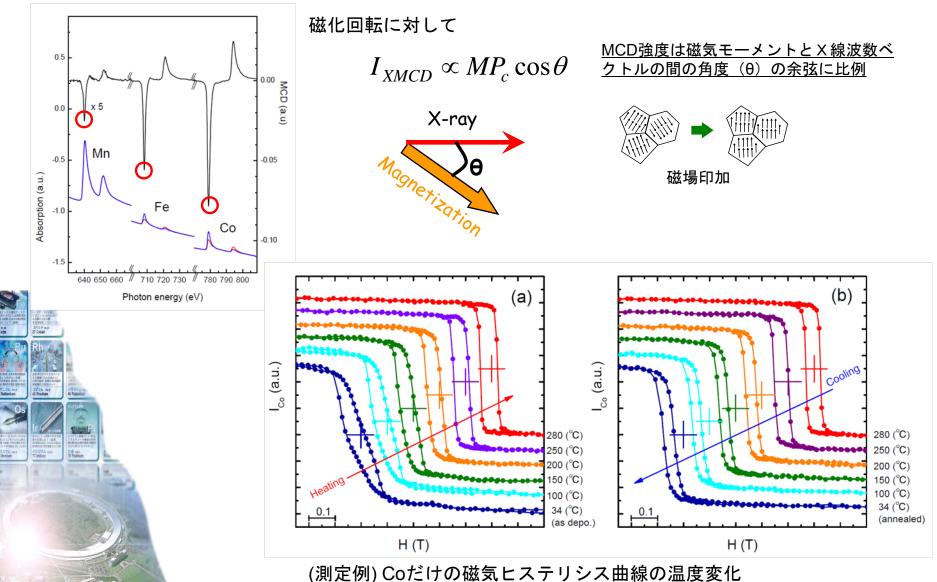
軌道磁気モーメント = $\bigcirc\bigcirc$ μ_B スピン磁気モーメント = \blacktriangle \blacktriangle μ_B





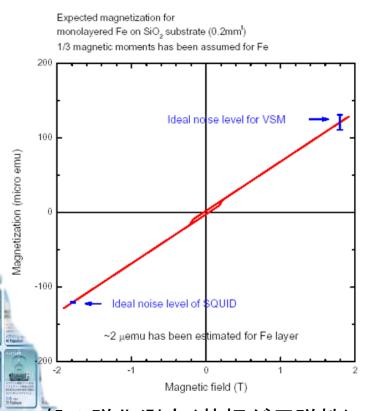
XMCDから得る情報(元素選択磁気ヒステリシス)



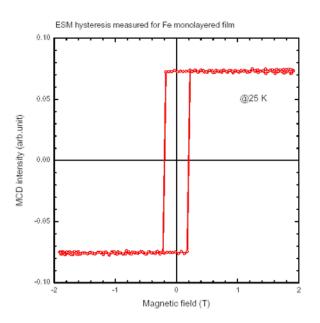


基板の影響を受けない磁化測定





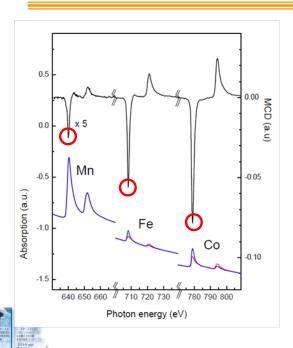
一般の磁化測定(基板が反磁性)



XMCDによる 元素選択磁気ヒステリシス曲線

XMCDから得る情報(元素選択磁化温度特性)





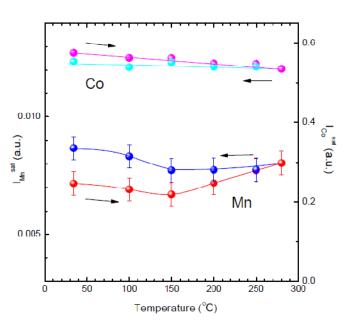
MCD強度の温度変化



元素別の磁化温度曲線

$$\mu_{orb} = -\frac{2}{3} n_h \left(\frac{I_{L3} + I_{L2}}{W_{L3} + W_{L2}} \right)$$

$$\mu_{spin} = -n_h \left(\frac{I_{L3} - 2I_{L2}}{W_{L3} + W_{L2}} \right) \times \left(1 + \frac{7\langle T_z \rangle}{2\langle S_z \rangle} \right)^{-1}$$

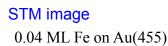


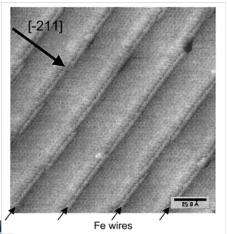
 μ_{orb} / μ_{spin} の温度変化が大きいときは注意が必要

(測定例) CoとMnのL23吸収端におけるXMCD強度の温度変化

Atomic wire on Au(788)

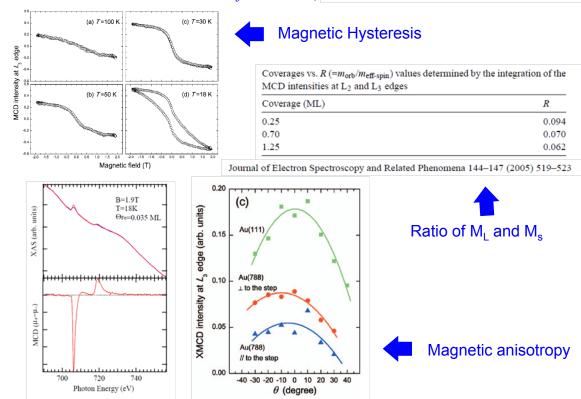






S. Shiraki et al., PRL. 92 (2004) 96102.

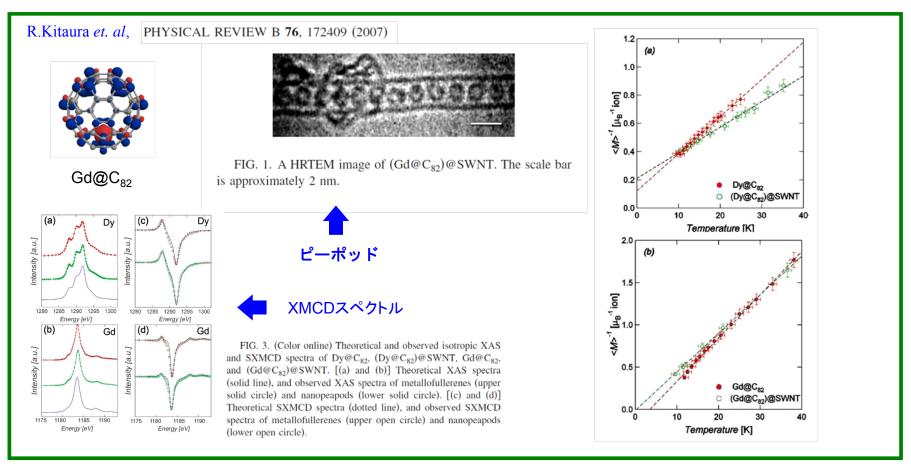
H.Fujisawa *et. al*, PHYSICAL REVIEW B **75**, 245423 (2007)



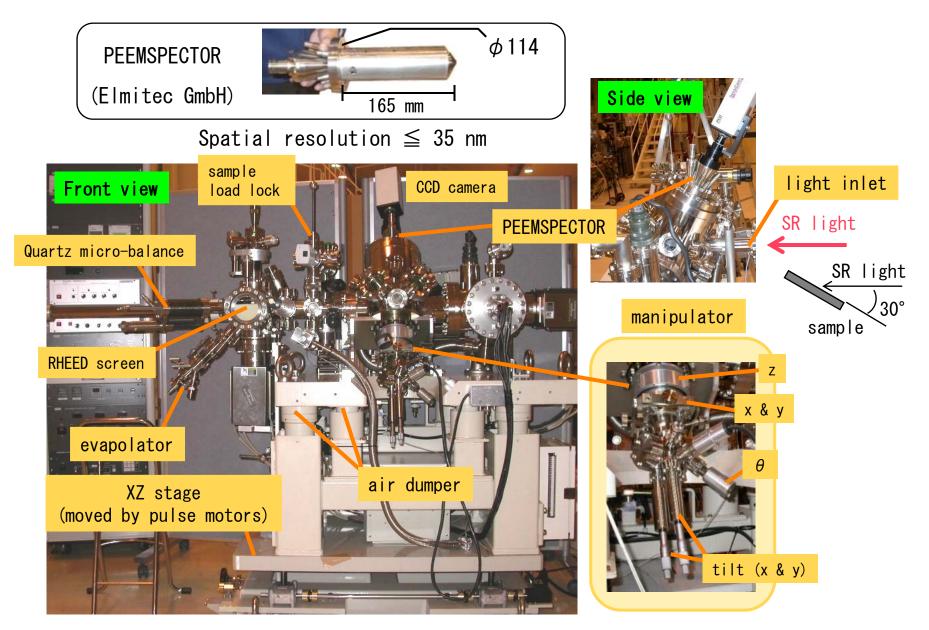
Au(111)から数度傾斜してカットした 基板Au(788)上に蒸着にてFeナノワイヤーを作製することができる。約0.07MLの薄膜に相当するほど希薄であり、通常の磁化測定を行っても基板の反磁性が支配的となり有意な測定は困難。また、表面のFeは極端に酸化されやすいので、UHV内のin-situ測定に限定される。XMCDで初めて磁化評価が可能になった。

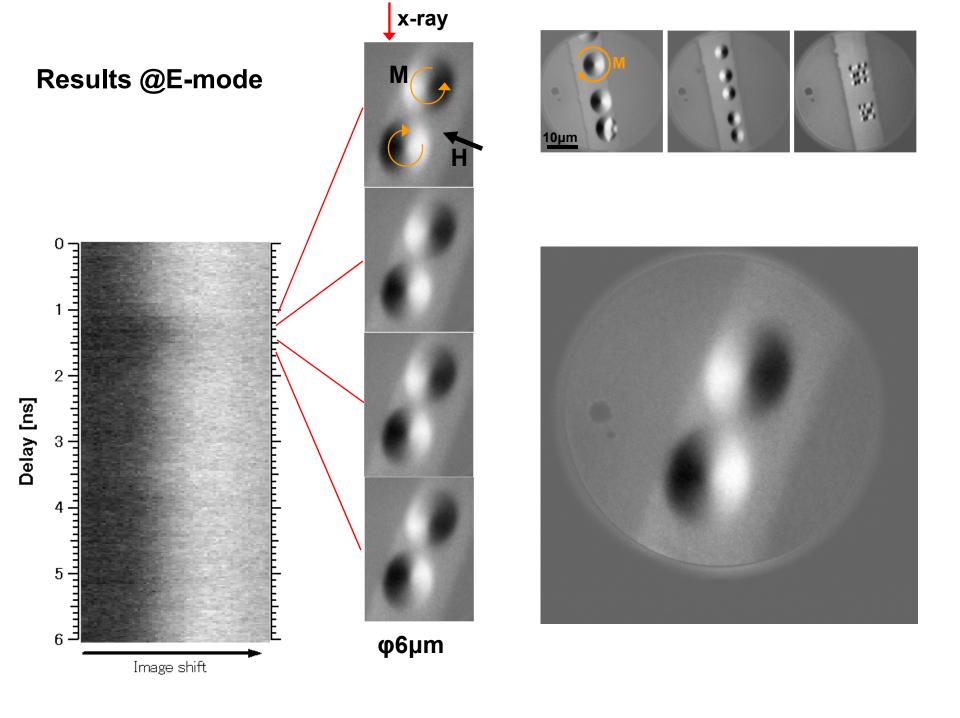
希土類内包フラーレンとピーポッドの磁性

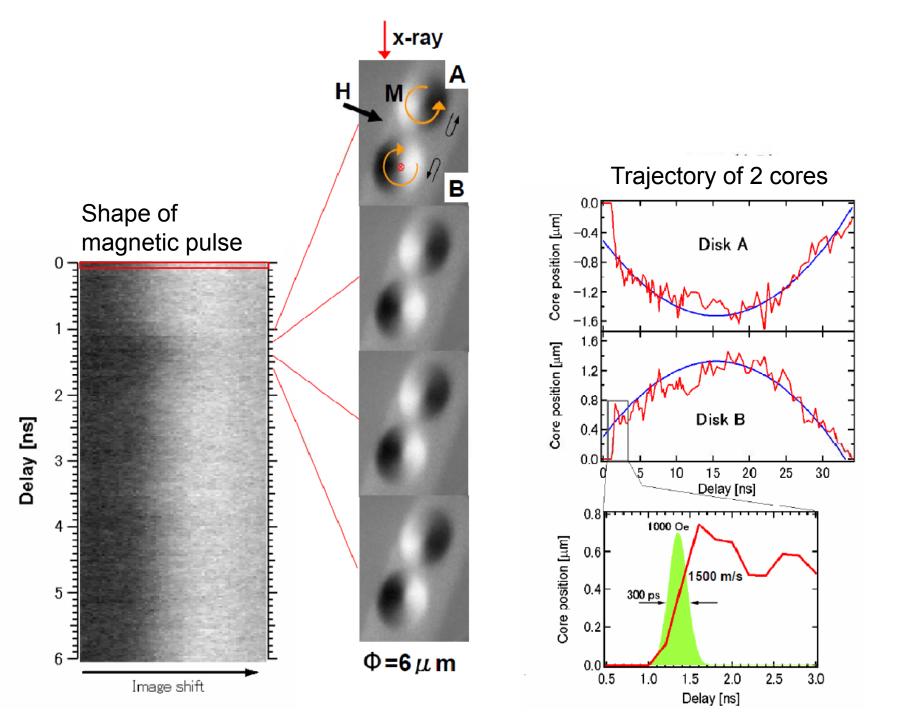
希土類内包フラーレンは、希土類金属を含む炭素棒を電極にアーク放電して生成させる。このとき、希土類内包フラーレンは確率的に生成するものであって、大半はグラファイトや希土類を内包しないフラーレンなどの目的外生成物である。したがって、これを液体クロマトグラフィーによって単離精製するが、その結果得られる試料は極微量である。XMCDでは極微量(µg)以下の試料も測定可能である。



PEEMSPECTOR system=>BL25SU at SPring-8



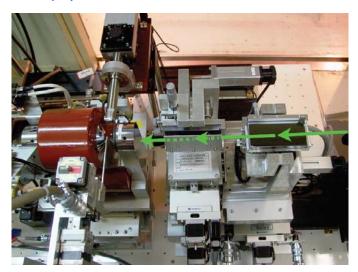




硬X線MCD測定設備@BL39XU

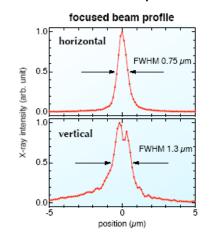


マイクロビームXMCD





ビームサイズ~1µm



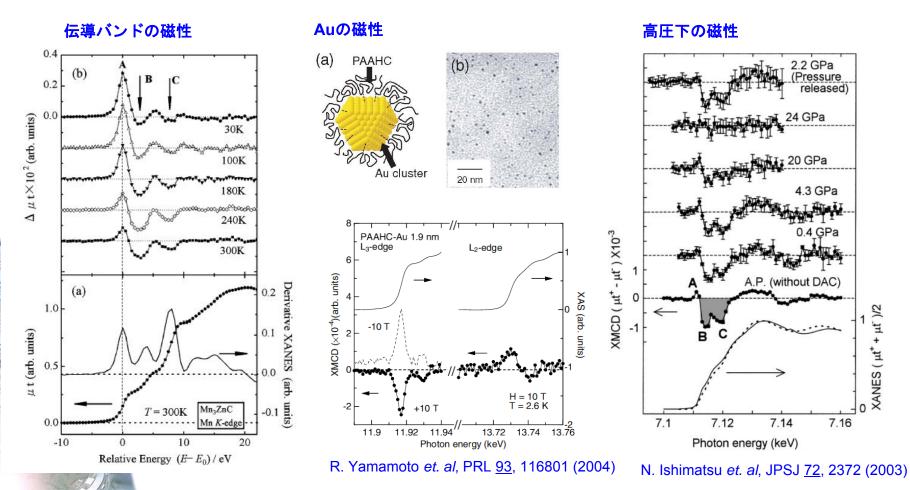
10 テスラ超伝導磁石



硬X線MCDの利用

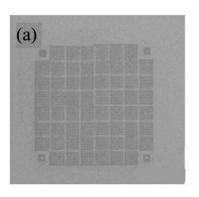


*硬X線*MCDならではの実験



H. Maruyama et. al, Physica B 351, 328-332 (2004)

微少領域のXMCD測定(マイクロビーム)



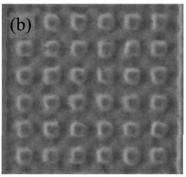


Fig. 2. Scanning ion microscope images of a magnetic dot array with dot size of 100 nm and space of 100 nm: (a) whole dot array (8 x 8 μ m²), (b) a part of the dot array (1 x 1 μ m²).

膜構成: Co₈₀Pt₂₀(15 nm)/Au/Ti/glass

ドットサイズ:100 nm

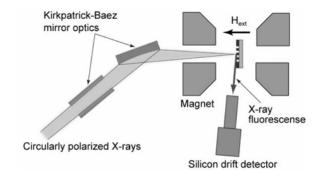


Fig. 1. Schematic view of micro-XMCD measurement.

Pt L₃吸収端でのESMH

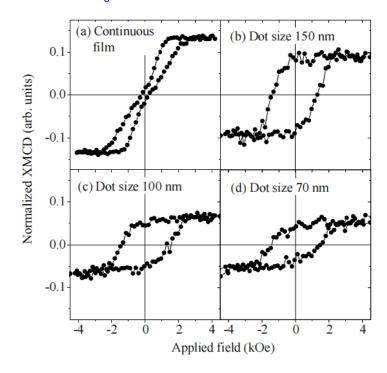


Fig. 3. ESMH curves at Pt L_3 edge of continuous film (a) and magnetic dot arrays with various dot size (b~d) by Ga ions with energy of 30 keV.

Summary



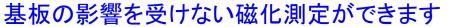
XMCDは、磁気光学効果を利用した磁気評価技術であり、以下の特徴を備える。

吸収係数スペクトルを測定する簡便な実験



磁化測定に元素コントラストを付加した情報

磁気モーメントの 定量評価 元素毎の磁気ヒステリシス曲線 元素毎の熱磁化曲線 元素毎の磁気ドメイン (PEEM, マイクロビーム走査)



(放射光実験のなかでも)特に簡単実験できるように整備されています

